新潟県立八海高校における SDGs 出前授業

新潟経営大学観光経営学部の学生による SDGs を身近な問題として捉え、いま自分たちになにができるのかについて考える出前授業が、7 月 17 日新潟県立八海高校の一年生を対象に行われました。

新潟経営大学観光経営学部から参加したのは、3 年生 3 人、2 年生 7 人、1 年生 3 人の 15 人です。一方の新潟県立八海高校から参加したのは、一年生全員の 81 人です。出前授業は 2 部構成で行われ、第一部は経営大学の 3 年生による SDGs の概要説明です。この中では、概要を説明するビデオ上映や SDGs に積極的に取り入れている企業の紹介と事業内容の説明、また全国で SDGs に取り組んでいる中学校や高校の紹介とともに取り組んでいる内容についての説明が、およそ 30 分にわたって行われました。参加した八海高校の一年生は最初、難しい言葉遣いに戸惑うような様子も見られましたが、説明が進めに連れてメモを取る生徒の姿も見られ、経営大学の説明に聞き入っていました。

出前授業の第二部は、4 つのグループに分かれて、概略説明を受けた SDGs を自分たちの生活レベルで考えてみようというワークショップ形式の授業です。経営大学の 15 人が 4 つの班に分かれて、ファシリテーターと高校生のサポーターとして授業を進めていきました。この実践形式の授業で使用されたのは、経営大学で去年考案された SDGs カードゲームで、予めアドランダムに混ぜられた 17 の目標が書かれたカードを引いて、そのカードに書かれている目標について、自分たちに何ができるのかをグループの中で話し合い、出た目標をその場で考えるというゲーム形式で SDGs を理解し、自分たちの生活でなにができるのかについて社会的関係性を考えながら学べるというものです。

自己紹介から始まったワークショップでは、経営大学生と八海高校生ともに始め表情がかたくなかなか雰囲気に溶け込むことができない様子でした。しかし時間が経つうちに徐々に表情が和らぎ、笑い声や経営大学生も高校生の考え方に目線を合わせることができるようになり、どこの班も全員で意見を出し合っていました。そして意見の書かれた付箋がボードいっぱいに広がるようになっていました。主に出された意見としては、環境問題が多く、ビニール袋の使用を控える、電気を節約する、食べ物を無駄にしないなどがありました。

最後に各班の話し合った内容を発表するコーナーでは、八海高校生が大きな声でそのボードを見ながら自分たちの出た意見を読み上げました。